

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	平成25年8月9日
【四半期会計期間】	第62期第1四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	寿スピリッツ株式会社
【英訳名】	Kotobuki Spirits Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 河越 誠剛
【本店の所在の場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部部长 松本 真司
【最寄りの連絡場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部部长 松本 真司
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第61期 第1四半期連結 累計期間	第62期 第1四半期連結 累計期間	第61期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(千円)	4,604,160	5,185,146	20,654,615
経常利益(千円)	319,348	266,416	1,889,375
四半期(当期)純利益(千円)	208,990	133,759	1,042,627
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	198,104	128,283	1,057,951
純資産額(千円)	6,230,111	6,907,037	7,089,958
総資産額(千円)	13,302,275	13,651,020	13,754,894
1株当たり四半期(当期)純利益金 額(円)	20.15	12.89	100.51
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	46.8	50.6	51.5

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間における事業環境は、厳しさが残る雇用・所得環境に加え、原材料価格の上昇や消費税増税など先行きに対する懸念は払拭されておらず、楽観視できない状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、新業態へのチャレンジと高い価値の創造に向け2013年経営スローガン『ニューコンセプトメーカー』を掲げ、新ブランド、新商品開発及び新規事業の推進、海外展開への着手などの事業施策を積極的に取り組んでおります。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、5,185百万円（前年同期比12.6%増）と堅調に推移いたしました。利益面では売上総利益率が前年同期の51.3%から52.2%と0.9ポイント増加した一方、新規出店の立上費用の発生や新規事業関連費用の増加、通信販売の新規顧客獲得に向けた広告宣伝費の増加などにより販売費及び一般管理費が増加した結果、営業利益は263百万円（前年同期比16.7%減）、経常利益は266百万円（前年同期比16.6%減）、四半期純利益は133百万円（前年同期比36.0%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

従来、「その他」に含めておりました「ジャパルシー」については、量的な重要性が増したため、当第1四半期連結会計期間より報告セグメントとして記載する方法に変更しており、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

また、前年同四半期の算定方法につきましても当四半期の区分に組み替え後の数値に基づいて算定しております。

ケイシイシイ

ケイシイシイは、15周年を迎えた「ルタオ」の記念スイーツ「メルクーヘン」や新感覚の生ゼリー「メランジェリー」など新商品投入により夏ギフト対策の強化に努めました。通信販売では、DM企画の充実、楽天市場などのネット通販対策の強化に注力いたしました。

その結果、売上高は、通信販売及びグループ向け売上が伸長したことなどにより1,832百万円（前年同期比10.9%増）となりました。利益面では、通信販売の新規顧客獲得に伴う広告宣伝費の増加や7月初旬に東京・表参道にオープンしたアントルメグラッセと生グラスの専門店「GLACIEL（グラッシェル）」の立上費用の発生などにより販売費及び一般管理費が増加した結果、営業利益は125百万円（前年同期比28.8%減）となりました。

寿製菓

寿製菓は、出雲大社の大遷宮行事により観光客が増加傾向にある山陰地区において「因幡の白うさぎ」など主力商品の販売強化や20周年を迎えた「お菓子の壽城」のイベント開催など地元対策の強化に注力いたしました。その結果、売上高は1,847百万円（前年同期比8.0%増）、営業利益は153百万円（前年同期比22.5%増）となりました。

販売子会社

販売子会社は、駅・空港・高速道路などの交通機関チャンネルを中心に、販売強化に努めました。中部地区では発売3年目を迎えた「小倉トーストラングドシャ」及び新商品「伊勢奉祝えび煎餅」の拡販などに取り組みました。その結果、売上高は1,034百万円（前年同期比3.7%増）、営業利益は38百万円（前年同期比25.6%減）となりました。

九十九島グループ

九十九島グループは、「赤い風船」の主力商品「フォンダンフロマージュ」の販売強化に注力したほか、福岡大名にフレンチトーストの専門店「Ivorish（アイボリッシュ）」を6月下旬にオープンするなど新業態に取り組みました。その結果、売上高は697百万円（前年同期比6.7%増）、営業利益は9百万円（前年同期比126.0%増）となりました。

但馬寿

但馬寿は、「伊勢奉祝えび煎餅」などグループ向け売上が堅調に推移した結果、売上高は251百万円（前年同期比8.7%増）、営業利益は10百万円（前年同期比26.3%減）となりました。

シュクレイ

首都圏での多ブランド展開に注力しておりますシュクレイは、社内体制の充実及び販売力の強化に注力いたしました。売上高は、前期に東京駅構内に出店した「ザ・メープルマニア」などの出店効果により512百万円（前年同期比91.8%増）となり、営業損失は2百万円（前年同期は営業損失12百万円）となりました。

ジャパルシー

美と健康をテーマに事業を展開するジャパルシーは、昨年10月より試験的に事業を開始し、本年5月に本格的に事業を開始いたしました。「栃の実」、「藍」などの天然由来の素材を活かした健康食品を主力にシャンプー、ボディシャンプーなどのパーソナルケア製品や化粧品ブランド「アイサクラ」を商品群に加え、新規会員の増大に注力いたしました。その結果、売上高は47百万円となり、営業損失は45百万円（前年同期は営業損失31百万円）となりました。

その他

その他は、損害保険代理業、通販基幹業務システムサービス事業が含まれております。売上高は11百万円（前年同期は1百万円）となり、利益面では2期目を迎えた新規事業の人件費の増加などにより営業損失は15百万円（前年同期は営業利益0百万円）となりました。

(2) 財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、13,651百万円となり、前連結会計年度末と比べ103百万円減少いたしました。主な要因は、現金及び預金の減少（183百万円）、受取手形及び売掛金の減少（300百万円）、流動資産におけるその他の増加（143百万円）、固定資産におけるその他の増加（106百万円）などの要因によるものです。

負債は、6,743百万円となり、前連結会計年度末と比べ79百万円増加いたしました。主な要因は、流動負債におけるその他の増加（432百万円）、未払法人税等の減少（297百万円）、長期借入金の増加（236百万円）、賞与引当金の減少（160百万円）、1年内返済予定の長期借入金の減少（142百万円）などの要因によるものです。

純資産は、6,907百万円となり、前連結会計年度末に比べ182百万円減少いたしました。主な要因は、四半期純利益の計上による増加（133百万円）、配当金の支払いによる減少（311百万円）などによるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.9ポイント減少し、50.6%となり、1株当たり純資産は665円84銭となりました。

(3) 事業上及び財政上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、11,000千円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 従業員数

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの従業員数に著しい増減はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,400,000
計	30,400,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,373,840	10,373,840	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 100株
計	10,373,840	10,373,840	-	-

(注) 当社株式は、平成25年4月3日をもって、東京証券取引所市場第二部に株式を上場いたしました。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	-	10,373,840	-	1,217,800	-	550,269

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしておりません。

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	300	-	-
完全議決権株式(その他)(注)	普通株式 10,372,900	103,729	-
単元未満株式	普通株式 640	-	-
発行済株式総数	10,373,840	-	-
総株主の議決権	-	103,729	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が6,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数60個が含まれております。

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
寿スピリッツ株式会社	鳥取県米子市旗ヶ崎 2028番地	300	-	300	0.00
計	-	300	-	300	0.00

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,647,934	2,464,028
受取手形及び売掛金	2,145,427	1,845,093
商品及び製品	592,651	647,763
仕掛品	26,452	28,107
原材料及び貯蔵品	329,949	339,301
その他	387,657	531,344
貸倒引当金	10,029	8,399
流動資産合計	6,120,041	5,847,237
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,991,335	3,011,207
機械装置及び運搬具(純額)	561,731	561,091
工具、器具及び備品(純額)	222,689	229,973
土地	2,500,667	2,500,667
リース資産(純額)	30,717	25,625
建設仮勘定	62,498	111,952
有形固定資産合計	6,369,637	6,440,515
無形固定資産	131,230	125,028
投資その他の資産		
その他	1,223,062	1,329,328
貸倒引当金	89,076	91,088
投資その他の資産合計	1,133,986	1,238,240
固定資産合計	7,634,853	7,803,783
資産合計	13,754,894	13,651,020
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	758,528	712,292
短期借入金	2,000,000	2,050,000
1年内返済予定の長期借入金	618,804	476,258
未払法人税等	439,214	141,881
賞与引当金	361,847	201,753
その他	891,718	1,324,148
流動負債合計	5,070,111	4,906,332
固定負債		
長期借入金	550,813	787,650
退職給付引当金	784,326	793,987
その他	259,686	256,014
固定負債合計	1,594,825	1,837,651
負債合計	6,664,936	6,743,983

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	4,522,054	4,344,609
自己株式	326	326
株主資本合計	7,062,689	6,885,244
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,269	21,793
その他の包括利益累計額合計	27,269	21,793
純資産合計	7,089,958	6,907,037
負債純資産合計	13,754,894	13,651,020

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	4,604,160	5,185,146
売上原価	2,242,209	2,480,306
売上総利益	2,361,951	2,704,840
販売費及び一般管理費	2,045,953	2,441,715
営業利益	315,998	263,125
営業外収益		
受取利息	73	38
受取配当金	1,373	1,840
受取地代家賃	4,533	4,029
その他	8,592	7,771
営業外収益合計	14,571	13,678
営業外費用		
支払利息	9,811	8,001
その他	1,410	2,386
営業外費用合計	11,221	10,387
経常利益	319,348	266,416
特別損失		
固定資産売却損	39	76
固定資産除却損	-	1,097
特別損失合計	39	1,173
税金等調整前四半期純利益	319,309	265,243
法人税等	110,319	131,484
少数株主損益調整前四半期純利益	208,990	133,759
四半期純利益	208,990	133,759

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	208,990	133,759
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	10,886	5,476
その他の包括利益合計	10,886	5,476
四半期包括利益	198,104	128,283
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	198,104	128,283

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
減価償却費	132,880千円	138,504千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	207,470	20.00	平成24年3月31日	平成24年6月27日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	311,204	30.00	平成25年3月31日	平成25年6月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	ケイシイ シイ	寿製菓	販売子会社	九十九島 グループ	但馬寿	シュクレイ	ジャパル シー
売上高							
外部顧客への売上高	1,567,679	1,138,045	971,776	584,175	73,838	266,923	-
セグメント間の内部 売上高又は振替高	85,274	572,713	26,133	69,831	157,598	-	-
計	1,652,953	1,710,758	997,909	654,006	231,436	266,923	-
セグメント利益 (は損失)	176,550	125,049	51,578	4,118	14,922	12,371	31,955

	報告セグメント	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
	計				
売上高					
外部顧客への売上高	4,602,436	1,724	4,604,160	-	4,604,160
セグメント間の内部 売上高又は振替高	911,549	-	911,549	911,549	-
計	5,513,985	1,724	5,515,709	911,549	4,604,160
セグメント利益 (は損失)	327,891	72	327,963	11,965	315,998

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業が含まれております。

- セグメント利益(は損失)の調整額 11,965千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額128,670千円、セグメント間取引消去額3,316千円、たな卸資産の調整額 2,626千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 141,325千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。
- セグメント利益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	ケイシー シー	寿製菓	販売子会社	九十九島 グループ	但馬寿	シュクレイ	ジャパル シー
売上高							
外部顧客への売上高	1,644,909	1,238,165	1,034,755	624,760	71,948	512,057	47,320
セグメント間の内部 売上高又は振替高	187,676	609,025	-	73,217	179,622	-	-
計	1,832,585	1,847,190	1,034,755	697,977	251,570	512,057	47,320
セグメント利益 (は損失)	125,726	153,245	38,379	9,307	10,993	2,869	45,461

	報告セグメント	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
	計				
売上高					
外部顧客への売上高	5,173,914	11,232	5,185,146	-	5,185,146
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,049,540	351	1,049,891	1,049,891	-
計	6,223,454	11,583	6,235,037	1,049,891	5,185,146
セグメント利益 (は損失)	289,320	15,196	274,124	10,999	263,125

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業、通販基幹業務システムサービス事業が含まれております。

- セグメント利益(は損失)の調整額 10,999千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額142,228千円、セグメント間取引消去額2,969千円、たな卸資産の調整額 2,397千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 153,799千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。
- セグメント利益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より「その他」に含めておりました「ジャパルシー」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成しており、前第1四半期連結累計期間の「1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」に記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

著しい変動がないため、記載しておりません。

(有価証券関係)

著しい変動がないため、記載しておりません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	20円15銭	12円89銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	208,990	133,759
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	208,990	133,759
普通株式の期中平均株式数(株)	10,373,489	10,373,476

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年8月6日

寿スピリッツ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 憲次 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 後藤 英俊 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている寿スピリッツ株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、寿スピリッツ株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。